

農地利用最適化の最前線

頑張る農業委員・農地利用最適化推進委員

加東市農業委員会 委員

竹内 康隆さん(66)

「集落営農の法人化を進める話し合いの過程で、地域の農地は自分たちで守るという認識を共有できた」と話すのは、加東市農業委員で、(曾)我曾農組合理事の竹内康隆さん(66)。

曾我集落は、2011年に同市で一番早く集落営農組織を法人化した。法人化のきっかけは、地域でリタイアする農家が増えてきたことだった。集落住民みんながこのままでは集落の農地を維持できないという危機感を持っており、法人化して農地の受け皿となることや機

械の共同利用など経営の合理化が必要という意見で一致。法人には、農家戸数40戸のうち36戸が参加し、高齢などにより耕作できなくなった農地をすべて借り受けているため遊休農地はゼロだ。

竹内さんは「13年に人・農地プランを策定、15年には農地中間管理事業を活用して法人に17・5秒を集積しました。が、地域の共通認識ができていたのでスムーズに進みまし

た」と話す。

また、組合員の中には専業農家はおらず、平日に作業で

を申し出てくれる人も現れたという。

竹内さんは「農地を守るには、やはり人材の確保が必要。ため、草刈りの手が回らなくなってきたところ、昨年全体で農地を守るという認識から地域の非農家の中に協力を共有していききたい」と話す。



「集落の農地約23割のうち8割を法人に集積しています」と話す竹内さん

徹底した話し合いで共通認識つくる